

まんだら通信

第222号 (通巻257号)

平成26年12月 西暦2014年 佛暦2580年 皇紀2674年

安房国八十八ヶ所 第一番札所
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口 1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高栴 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org

古宿の堰

白浜ダムの堰堤に向かつて左側、つまり西側に小さな沢が流れ込んでいます。今は壊れています。この沢をせき止めて小さな堰がありました。「古宿の堰」というのだそうです。足腰がまだ少しは達者だった二十年前は、あちらこちらの野山に入って野草を写していましたが、そんな時、偶然この堰を見つけました。十年ほど前までは、この堰の水を利用して田んぼを作っている人がいましたが、その辺りの

田んぼは作り手がいなくなって、今は荒地地になつています。

山の反対側の、ダムに一番近いその一面の田んぼは、小字で古宿という所で、十何軒かの人たちの所有だったと、曲田の吉田満寿雄さんに教えてもらいました。田んぼに水を引くために、山をくりぬいてトンネルを掘つてあるのですが、現在のような測量機械が恐ろしくなかったところ、どのように測量して掘つたのか、私には見当がつかせません。

また、堰からトンネルの手前は急な岩盤を削つて水路があり、直角にトンネルが掘られています。今と較べると遙かに暗い明かりを頼りに、つるはしともつこで掘り進んだのだらうと思うこの工事に、どれほどの日数と費用と人数がかかったのでしょうか。

この灌漑用水のお陰で、今までであった田んぼは水不足の心配がなくなり、その上に新しい田んぼの開墾も出来ました。

今でこそ減反などといって田んぼを荷厄介に思っています。この国始まって以来ついでの間まで、お百姓にとつて、田んぼが増えることは何よりの喜びでした。

上の写真はその時の竣功碑で、高さ一メートル余り、次のように読めます。

発起者 峰 徳次郎
神田 佐治平
監督者 本間 仙松
明治四十二年三月竣功
補助 耕地中

そしてそれぞれのお名前の上

に、多分自信作の俳句が刻まれています。上の句は、残念ながら何れも欠け落ちて読めませんが、

峰さん「や 峰より落つる水の音」
神田さん「は 誰もにごさぬ田植えかな」
本間さん「した 誠と 川の堤かな」と読めるそうです。

写真が小さく、画面では読むことが出来ませんが、作法通り見事な変体仮名で刻んであり、私には歯が立ちませんので、成田山新勝寺の前寺務長山崎長臈さまと、白浜の滝口材木店の奥様に読んで戴いたものです。

この竣功碑を見た時、私がビックリしたのは、今のよう力仕事は機械まかせでなく、田植え、草取り、稲刈りや脱穀と、何事にも大汗を流しながらの厳しい仕事だった中で、一文の足しにもならぬ俳句をたしなんでいたお百姓の、ゆとりに満ちた暮らしぶりでした。

館山市立博物館の館長さんに電話でお聞きしたところ、松尾芭蕉以後、俳句をたしなむ人が全国規模で沢山いたのだそうで、安房地でも昔の村、(白浜村、乙浜村、滝口村、根本村など)の単位で、今で言えば趣味の会が同じ村の中にもいくつもあって『連』といったそうです。連の仲間、所謂学のあるお医者さん、お坊さん、名主さんなどだけでなく、普通のお百姓や漁師さんも入っていました。改修前のこのお寺にも俳句会の記録がありました。沢山の反古と一緒に処分されてしまいい残念なことをしました。

ここでは、普段の身分は関係なく、俳句の上手下手だけが基準ですから、なかなか風通しの良い世界だったことが分かります。村に行事がある日には、集まって句会を開き俳句を作り、楽しみ合つて力をつけたのだそうです。曲田にはお不動様が祀られていますから、初不動の縁日に集まったり、毎月の伊勢講、大山講、成田講など集まる機会は幾ら

でもありました。勿論今でも俳句の会はありますが、たしなむ人の数はケタ違いではないでしょうか。金回りが良くなつて暮らしやすくなつたのは確かですが、心の豊かさということでは、発展どころか退化しているのではないかと考えて仕方ありません。

過疎地の活性化を考える時、「収入の道がないからなあ」と思うのは、もともと住んでいる私たちの方で、安定した電力、高速道路、光ファイバーのような高速通信環境など、全国に出来上がっていることを思うと、農業に限らず、イラストレータやプログラマなど、仕事の選択肢は意外に多いと思えますが如何でしょうか。この南房総地方にも、数こそ少ないものの、暖かい気候と豊かな自然に惹かれて、移り住む若い人たち、退職後の人生を過ごす人たちがいます。

にっぽん人情小噺 落語家 三遊亭鳳豊 第一〇七話 はさみ

最近、テレビを見ていて、かなり左利きの方が多いのに驚きませんか。

プロ野球中継を見ていると、かなり左利きの選手が多くなっている。見慣れているはずなのに、テレビの食卓を囲むドラマで、娘さん役の女優さんが左手に箸を持つてごはんを食べている場面が出てくると、いけないと思いつつも、妙な違和感を覚えてしまうのはなぜでしょうか。

そうそう、それで思い出しましたが、最近のアメリカの大統領がほとんど左利きだということ、ご存じでしたか。ここ七代の大統領をみると、第三十九代のカートー、第四十三代のブッシュ・ジュニア以外のフォード、レーガン、パパ・ブッシュ、クリントン、そしてオバマと全員左利きで

す。もつと驚いたのは、ミケランジェロ、ダ・ヴィンチ、バッハ、モーツアルト、ベートーベン、ニュートン、アインシュタイン、そしてピカソという世界史を飾る人物まで左利きだったという事実です。ねえ、ご存じなかったでしょう。

女優さんが左利きぐらいのことで驚くこともないわけです。さつき、野球の選手に左利きが多いと書きましたが、ことピッチャーに限って、左利きをサウスポーというのは何故だか分かりますか。これは、野球場の向きと関係あるんですってね。

野球場というのは、バックネット裏の観客がまぶしくないように、バッターから見るとピッチャーからセンターに向かういわゆるセンターラインは、東北の方向になっているんだそうです。すると、ピッチャーは南西に向かつて投げます。その時、手と足が南を向くので、サウス(南)、ポー(動物の前足)と言われるようになったそうです。

今日は、左利きにまつわるお話で、北陸のある地方都市の大型機械メーカーに勤めていた男女のお話です。

主人公は、高橋宏三さん(仮名)。現在七十二歳です。出身は東京なのですが、有名な私立大学の工学部を卒業して、そのメーカーに就職しました。同期は十七人。うち、男子十二人は大卒で、五人が女子。当時は、まだ女子大出は少なく、五人とも地元の普通高校を卒業したばかりで、十八歳の初々しい社員でした。

その五人のひとりが、広田恵美子さん(仮名)。色白で面長、目元がちよつと下がったかわいらしい顔立ちのお嬢さんでした。彼女は、他の四人が営業部に配属されたにもかかわらず、ひとり、総務部に配属され、日常の雑務に追われていました。

「おい、せつかく同期で入社したのだから、

集まろうよ」そう言い出したのは、九州は宮崎の大学を出て入社した田村孝さんです。田村さんは、高橋さんと会社の寮でいっしょになり、仲よくなったのです。田村さんは、文科系でしたので、営業部に配属されました、営業部に同期の女子社員が四人も配属された関係で、その女子社員が田村さんをせつついたという噂もありましたが、定かではありません。

ともあれ、田村さんが幹事となり、入社して半年後、途中転職したひとりを除く男子十一人、女子五人が繁華街の居酒屋さんに集合し、第一回の同期会が行われたのです。加山雄三の「君といつまでも」が大流行していたころの話です。

高橋さんは、入社式ではじめて広田さんを見た時から好意をいだいていました。理由はわかりません。まさに、一目ぼれだったのかもしれない。高橋さんは、理工科系一筋だったこともあって、大学時代に女性とつきあつたこともなかったから、まだ幼い面影を残していた広田さんを好きになったのでしょう。しかし、だからと言って、何もないまま、月日は流れ、この日を迎えたのです。神様の悪戯でしょうか。抽選で決められた席で、高橋さんと広田さんは隣同士になったのです。高橋さんは、照れながらも、広田さんと夢中で話をしました。広田さんもまるでお兄ちゃんに甘える妹のように楽しそうに見えました。

その時、広田さんは高橋さんのスーツのズボンの足元がかぎ裂きになっているのに気づきました。「あら、これ、放っておくと広がってしまいますよ。あさつての日曜日、私が縫ってあげますね」「え、いいよ、いいよ」

「大丈夫、私、洋裁、得意なんだから」二日後の昼下がり、高橋さんの部屋に、広田さんの姿がありました。その時、高橋さんは見たのです。彼女が左の手で、一生懸命、はさみで布を切っているのを。それは、いかにも大変

そうでした。近ごろのはさみはそうでもないでしょうが、昔のはさみは、いかにも右利きのために作られていて、指を入れる穴の大きさが左右、ちがっていたのです。それでも洋裁が得意だというだけあって、上手にはさみを使ってズボンを直してくれました。

高橋さんは、広田さんをますます好きになりました。それでも、何も告白することもなく一年が経ち、彼は東京の工場に転勤になりました。

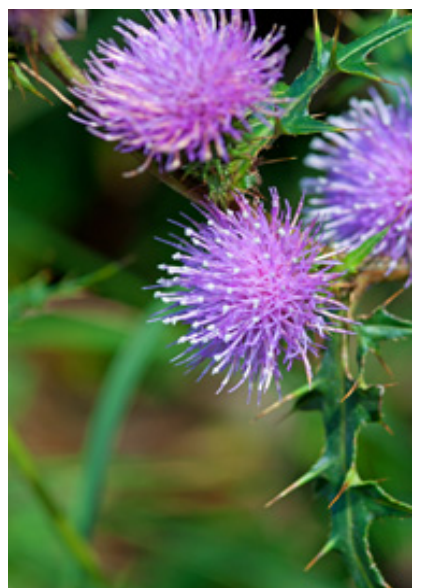
東京で、高橋さんが必死で探したものがありませんでした。それは、左利きの人のための洋ばさみでした。休みのたびに、デパートや刃物屋さんを訪ね探しました。特別注文では余りにも高価でした。

そして、三年後、とうとう左利きのための洋裁ばさみが見つかりました。

そして早速広田さんに送りました。でも、それつきりナシのつぶてでした。北陸で行われた十年ぶりの同期会にも高橋さんは行きました。久しぶりに顔を合わせた同期は東京から駆けつけた高橋さんを喜んで迎えてくれました。でも、そこに広田さんの姿はありませんでした。それから数回、その同期会は続きましたが、会うことはできませんでした。そして、先日、これで最後にしようという同期会が開かれ、高橋さんは勇気を奮って、幹事の田村さんに告白をしたのです。田村さんも、すでに故郷の宮崎に帰っています。電話で同僚に尋ねても「広田恵美子? そう言えば、そんな子いたなあ。でも、知らないなあ。すぐ辞めたんじゃないか」という程度です。同期の女子社員に聞いても、「二年ぐらい勤めて、辞めたと思うわ」としかわかりません。どなたか知りませんか。

石川県出身で洋裁が好きで、いまでも左利き用のはさみを大事に使っている六十代後半の女性を、東京の高橋宏三さんが探しています。そうそう、高橋さんは、この年まで、ずっと独身です。

リカ世論を味方につけるために、日本に手を出させるように仕組んだワナだったことがはっきりしていますが、大方の日本人と当のアメリカ人も日本は卑怯な戦争を始めた悪者、と思っています。繰り返しますが、乗せられてしまった日本にも責任はありますが、開戦の責任の大半は、アメリカ国民を騙したルーズベルト大統領にあります。▼今月の野草はアザミ【キク科アザミ属】日本には100種もあるそうで、アザミという種名はないとか。アザミは春の花かと思っていたのですが、間違っているかも知れませんが、秋咲きの方が多いのだそうです。 2014.12.08 龍涉



とです。他に「自然エネルギーで大丈夫」という話があります。太陽光や風力発電は、お天気任せですから、急な時には殆ど役に立たないでしょう。鳴り物入りで始めたドイツやスペインは、電気料だけ上がって採算が合わず、政府の援助が取りやめになりました。▼今月もMOKU出版と三遊亭鳳豊師匠のご好意で『人情小噺』のはさみを転載させて戴きました。有難うございます。▼70年余り前、昭和16年12月8日は、日本軍が真珠湾を奇襲攻撃して、太平洋戦争が始まった運命の日ですね。今では、アメリカのルーズベルト大統領が、戦争反対のアメ

▼早いもので、今年最後のお便りになりました。お元気にお過ごしのことと思います。私はといえば、先日京都に行って風邪を引き直してしまいました。明後日10日から12日まで、興教大師覚鑿上人の報恩講に、2泊3日でまた行かなければなりません。何とか持ちこたえたいと思っています。▼折から衆議院議員の総選挙の真っ最中。政党や候補者の話だけ聞いていると、明日にでもみんなが幸福になれるような気になりますが、ホントでしょうか。▼中でも嘘がバレバシなのは、「原発要らない」という公約。今休んでいる原発は2重3重の安全を考えてありますから、若し事故があっても何十万年も遠い将来のこ